

# 湿式吹付断面修復用ポリマーセメントモルタル RF厚付モルタル-SP

■東・中・西日本高速道路株式会社編著「構造物施工管理要領」記載「吹付け工法による断面修復の性能照査項目」の性能試験完了材料  
■JR西日本認定断面修復材「鉄筋裏背面20mm対応仕様材料」および「鉄筋裏背面10mm対応仕様材料」

RF厚付モルタル-SPは、プレミックス粉体「RF厚付パウダーSP」とSBR系ラテックス混和材「RF厚付混和材SP」からなる湿式吹付断面修復用のポリマーセメントモルタルです。湿式吹付工法により大面積の断面修復に適しています。

## ▶ 特 長

- 寸法安定性に優れ、ひび割れ発生を抑制します。
  - コンクリートとの接着性に優れ、付着力は環境の変化に対して安定しています。
  - 土木用途だけでなく建築構造物にも適用できます。
  - 特に塩害対策に用いる場合は、弊社指定の亜硝酸リチウム系防錆材を併用することができます。
- ※亜硝酸リチウム系防錆材を併用する場合は、弊社までお問い合わせください。



## ▶ 用 途

- コンクリート構造物の欠損部の断面修復

## ▶ 製品概要・標準配合

- RF厚付パウダーSP:20kg/袋
- RF厚付混和材SP:18kg/缶

### ■標準配合

RF厚付パウダーSP	20kg(1袋)
RF厚付混和材SP	1.0kg
練混ぜ水	1.9~2.3kg

### ■1m<sup>2</sup>当りの標準使用量（練混ぜ水2.0kg/袋の配合）

RF厚付パウダーSP	1,880kg(約94袋)
RF厚付混和材SP	94kg(約6缶)
練混ぜ水	188kg

- 1)練混ぜ水量は、施工時の気温や施工方法により変動します。したがって、標準配合の範囲内で調整して下さい。  
※練混ぜ水量は、気温が低い場合少なく、気温が高い場合は多くなります。
- 2)練混ぜ水は、水道水またはそれに準じる清水を用いて下さい。
- 3)練混ぜ水量2.0kg/袋により算出した数値です。

▶1袋当りの練上がり量 約10.6ℓ

## ▶ 性能例(20℃)

試験項目	試験結果	準拠試験方法	
寸法安定性 (%)	0.04	東・中・西日本高速道路株式会社の構造物施工管理要領「吹付け工法による断面修復の性能照査」による	
熱膨張性（熱膨張係数、×10 <sup>-5</sup> /℃）	1.3		
コンクリートとの 付着性 (付着強さ N/mm <sup>2</sup> )	養生終了時		2.0
	振動試験後		2.3
	凍結融解抵抗性試験後		1.9
圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )	50		

- 上記データは標準配合時の試験結果です。また、厳密に管理された試験室内にて実施されたデータであって、現場においては異なる数値を示す場合があります。
- 上記データのうち「圧縮強度」は、10Φ×20cmの円柱型枠内に吹付けて作成した供試体により測定した結果です。他の寸法・形状の供試体や吹付けずに作成した供試体では異なる結果を示す場合があります。

## 施工概要

- ① 劣化あるいは脆弱化した部位を、はつりあるいは高圧水で完全に除去し、健全なコンクリート面を露出させて下さい。コンクリート面を露出させて下さい。
- ② コンクリート面は十分に清掃して、埃や汚れを取り除いて下さい。
- ③ 鉄筋が発錆している場合には、防錆処理を施して下さい。
- ④ 施工面には適切なプライマーを塗布して下さい。
- ⑤ モルタルを練混ぜる際、過度の練混ぜによる泡の巻き込みすぎに注意して下さい。
- ⑥ 練混ぜ量は、作業体制、環境条件等によって調整し、一度に大量のモルタルを練り混ぜないで下さい。
- ⑦ 練り上がったモルタルを吹付工法で施工して下さい。
- ⑧ 1層めの吹付けは下地が隠れる程度とし、密着するように施工して下さい。2層目以降の吹付けは、前層の吹付け終了後、適度な養生期間を置いて十分に締まったことを確認してから行って下さい。
- ⑨ 最終仕上げは、モルタルが締まった後に、金ゴテ仕上げを行って下さい。補修後は急激な乾燥を受けないよう、シート等を用いて養生を行なって下さい。
- ⑩ 詳細は、施工要領書をご参照下さい。

### ご使用になる前に、必ずご確認ください。

●本カタログに記載される性能例他の事項は代表的な実験値や調査に基づくものであって、「すべての現場諸条件」に当てはまるものではありません。●ご使用になる前に、使用の目的や要求性能、および使用される場合の現場諸条件を考慮して、本製品が適正であるかどうかのご検討をお願いいたします。●特に、現場において実施されることの多い「圧縮強度」、「付着強度」については、試験体作成時の配合や環境温度、成形方法、試験体寸法や形状、その後の養生条件等により下回る数値を示すことがあります。●試験手順については、工事仕様書、発注者仕様書、または関連する指針(案)等をご確認頂き、必要に応じて監督係員と協議して事前に確認しておくようお願いいたします。

### 使用上の留意事項

- 練混ぜには、RF厚付混和材SPを用いて下さい。
- 練混ぜ水は、水道水またはそれに準じる清水を用いてください。
- 欠損が大きいなどはく落の恐れがある場合は、鉄筋の設置、アンカー、メッシュの取り付け等のはく落防止対策を行って下さい。
- 外気温が5℃以下の場合は、作業を行わないで下さい。やむを得ず施工する場合は、シート等の覆いの他、ヒーター等の保温措置を講じて下さい。
- 施工中および施工後早期に強風、日射、降雨、降雪等の影響を受ける恐れがある場合は、シートで覆う等の養生を行って下さい。
- 練混ぜには、アルミニウム製の羽根は絶対に使用しないで下さい。アルミニウム部材が摩耗し、施工後に異常膨張する恐れがあります。
- RF厚付パウダー-SPの保管は、雨露等がかからず湿気の少ない場所を選び、パレット等を敷いて床面から離れた状態で、ビニールシート等で覆って下さい。
- RF厚付混和材SPの保管は、直射日光を避けるとともに、凍結を避けるために5℃以上、変質などによる劣化を防ぐために40℃以下で保管して下さい。
- 廃棄する場合は、硬化後に産業廃棄物として処理業者に廃棄をご依頼下さい。
- 排水等は、水質汚濁防止法等の関連諸法令に従って廃棄して下さい。



### 安全上の注意事項

- 本製品は、カタログに記載されている方法でご使用下さい。
- 本製品は、セメントと同様にアルカリ性を示します。ご使用の際は、眼、鼻、皮膚および衣類に触れぬよう保護具(ゴム手袋、保護めがね、マスク等)を着用の上、ご使用下さい。
- 誤って眼に入った場合は、直ちに清水にて十分洗浄した後に速やかに医師の治療を受けて下さい。
- 誤って飲用した場合は、直ちに吐き出して、清水で十分洗浄した後に速やかに医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着すると肌荒れを引き起こすことがありますので、付着した場合は直ちに水洗いして下さい。
- 作業後は、手洗い、うがいをして下さい。
- 本製品の取扱いに関して、詳細な内容を必ず安全データシート(SDS)にてご確認ください。

このカタログの記載の諸性能および諸物性は、環境条件や使用条件などによりカタログと異なる結果を生じることがあります。十分にご検討の上、ご使用頂きますようお願い申し上げます。このカタログの記載内容は、予告無しに仕様や取扱いを変更することがありますので、ご了承ください。

 太平洋マテリアル株式会社 <http://www.taiheiyo-m.co.jp>

#### 営業本部 機能性材料営業部

〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー15階 TEL.03-5832-5217

北海道営業部	〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西5-1-3 日本生命北門館ビル	☎ 011-221-5855
東北支店	〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-1-1 大同生命仙台青葉ビル	☎ 022-221-4511
東京支社	〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー16階	☎ 03-5832-5240
中部支店	〒453-0801 愛知県名古屋市中村区太閤3-1-18 名古屋KSビル	☎ 052-452-7141
関西支店	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル4階	☎ 06-7668-6001
広島営業部	〒732-0828 広島県広島市南区京橋町1-23 三井生命広島駅前ビル	☎ 082-261-7191
高松営業部	〒760-0050 香川県高松市亀井町7-15 セントラルビル	☎ 087-833-5758
九州支店	〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-2-31 第2サンビル	☎ 092-781-5331